

東北地方太平洋沖地震に係る本院の救護活動について

大阪大学医学部附属病院長 福澤正洋

3月11日に発生いたしました東北地方太平洋沖地震により被害を受けられた皆様に、心からお見舞い申し上げます。

大阪大学医学部附属病院といたしましては、被災された皆様が平穏な生活を1日も早く取り戻されるために少しでもお役に立てればという気持ちを込めて、下記の救護活動を行っております。

1. 本院から医師2名、看護師2名、事務1名で構成するDMATチーム及び医師2名、看護師1名のドクターヘリチームを派遣。DMATチームは、平成23年3月12日（土）6時50分、伊丹空港から自衛隊機で花巻空港へ向い8時50分に到着、空港に設置されたSCUにおいて医療活動を開始。
同じくドクターヘリチームは、同日7時30分に福島県立医科大学に向けて出発、13時14分に到着し患者搬送等の医療活動を開始。
2. 平成23年3月14日（月）11時00分から病院が召集した「東北地方太平洋沖地震に係る打合せ」において、支援等について検討。
3. 平成23年3月14日（月）13時00分、文部科学省から放射線測定者の福島県への派遣要請を受け、医師1名、看護師2名、放射線技師1名 計4名の派遣を決定し、3月15日（火）12時00分、伊丹空港から羽田空港に向けて出発し、現在、千葉県放射線医学総合研究所において待機中。
4. 平成23年3月15日（火）14時30分DMATチームが任務を終え、無事帰院した。また、16時30分ドクターヘリチームも任務を終え、無事帰院した。

（平成23年3月16日8時30分現在）